

令和4年度事業計画書

昭和聖徳記念財団は、昭和天皇のご聖徳を顕彰し、後世に伝えるため、昭和天皇記念館の管理運営を行うとともに、学術研究への助成、青少年の健全育成及びご事績に関する講演会の開催や出版等の事業を行うことを目的としている。

当財団創設以来の念願であった昭和天皇記念館は、平成14年4月、国土交通省において、昭和天皇ご在位50年記念事業の一環として整備を進めてきた国営昭和記念公園「みどりの文化ゾーン」内の「花みどり文化センター」の一部に設置することとされ、その展示運営については、当財団の協力を得ることと決定された。当財団としては、これを受けて「花みどり文化センター」の一郭に展示施設としての内装を整え、宮内庁をはじめ、(独)国立科学博物館筑波研究資料センター、NHK放送博物館などの協力を得て、平成17年11月27日、昭和天皇記念館を国営昭和記念公園の「みどりの文化ゾーン」の開園と併せ開館し、平成27年に開館10周年、令和2年に開館15周年を迎えた。

令和4年度は、昭和天皇のご事績を後世に伝えるため、昭和天皇記念館の管理運営並びに記念館以外の諸事業についても事業を継続するが、基本財産等の運用収入が相当少ないこと及び新型コロナウイルス感染症拡大により記念館入館料等減収のため事業費等の節約は維持することとする。

なお、平成28年度に理事会の承認を得て、特定資産に昭和天皇記念館維持管理のための特定費用準備資金を設け、平成29年度から計画的に取り崩したが、令和4年度の取崩しにおいて資金がなくなるので、新たに理事会の承認を得て資金を調達するものとする。

また、公益目的事業会計の流動資産が減少し少なくなっており、令和3年度決算において特定資産(投資有価証券等)から流動資産に3500万円を取り崩すことといたしたい。

1. 公益目的事業

(1) 昭和天皇記念館の管理運営事業 51,855千円

昭和天皇記念館は、昭和天皇のご聖徳をたたえそのお人柄をお偲びするとともに、後世にそのご事績を伝えつぐことを目的として開設した。

昭和天皇並びに香淳皇后のご遺品や映像などの展示により昭和の時代を顧みるとともに、昭和天皇の御心とお姿を一人でも多くの方に知っていただくため、令和4年度においては、平常展示「昭和天皇87年のご生涯」及び「昭和天皇の

生物学ご研究」のほか、令和2年9月10日から4期に分け開催した開館15周年特別展示「昭和天皇とヨーロッパの旅－天皇への学びの旅と国際親善」の写真展の総集編を令和4年1月2日から4月10日まで実施、特別展示終了後は、企画展示として4月14日から7月17日まで「絵葉書で見る昭和天皇」（仮称）を、8月23日から令和5年4月9日まで「京都大宮御所で使われた御用食器」（仮称）を開催する予定。

今なお感染症の影響が不透明であるが、入館者の増加を図るため、記念館の広報及び団体客の誘致対策を積極的に進めることとする。

また、令和4年度に予定していた特定資産昭和天皇記念館修繕積立金の一部を取崩し、7月から8月にかけて記念館の照明器具改修工事を実施する。

※【記念館管理運営事業収入見込額 3,200千円】

※【書籍頒布事業収入見込額 100千円】

(2) 生物学、医学等の学術研究への助成 1,802千円

昭和天皇は、皇居内の生物学御研究所で、ご公務の合間にご研究を続けられた。ご専門は変形菌類、海産動物のヒドロ虫類の分類学的研究だった。また那須や須崎の御用邸、皇居の周辺などでも、植物の調査・研究をお続けになられた。著書も多く出版され、業績は国際的に高く評価されている。

学術研究への助成は、平成3年度から、生物学に関する世界的学術者としての昭和天皇の研究分野(系統分類学)及びそれに関する生物学分野の研究を奨励し、学術研究の推進・発展に寄与することを目的として行い、令和2年度までに100件の助成を行ってきた。令和4年度は、引き続き動・植物における系統分類学の研究を対象として公募し審査のうえ、原則として1件あたり50万円2件を助成する。

(3) 昭和天皇のご事績普及事業の実施 15,715千円

① ご事績に関する事業 215千円

昭和の日を記念して昭和天皇のご遺徳を偲び、ご事績を後世に伝えるため、4月29日、国営昭和記念公園内において講師を招聘して講演会及び皇室関係のビデオ上映を行う予定。

また昭和天皇のご命日にあたる1月7日の御陵参拝、昭和天皇・香淳皇后の御陵をはじめ東京豊島岡の皇族方の御墓清掃等の勤労奉仕は、感染症の影響を考慮しながら慎重に行うこととする。

② 新聞「昭和」発行事業 10,100千円

昭和天皇のご聖徳を顕彰し、ご事績を後世に伝えるため、新聞「昭和」を平成元年6月から発行、平成7年度からは一般財団法人日本宝くじ協会より助成を受けている。新聞「昭和」では、昭和天皇のご事績、昭和時代の関連記事及び昭和天皇記念館の展示内容に関して昭和天皇の記事、さらに現皇室のご活動・皇室関連記事を掲載し、国民と共に歩む皇室のお姿を広く国民に紹介している。

引き続き令和4年度においても新聞「昭和」（年6回、各20,000部）を発行し、記事の内容の充実に努め、各所に配布する。

※【日本宝くじ協会助成金収入見込額 6,480千円】

③ 昭和天皇御製カレンダー製作事業 5,400千円

昭和天皇のご聖徳を顕彰し、後世に伝えるため、宮内庁の許可を得て平成6年から「昭和天皇御製カレンダー」を製作、贈呈頒布している。

令和4年度においても、引き続き昭和天皇のご遺徳、御製を広め伝えるため、令和5年版「昭和天皇御製カレンダー」（約6千部）を製作、贈呈頒布する。

※【御製カレンダー頒布収入見込額 3,500千円】

事業費合計 69,372千円

※助成金等収入見込額 -13,280千円

56,092千円

2. 収益事業 3,340千円

昭和天皇記念館において、入館者のために記念となる品々の頒布を目的としたミュージアムショップの事業を営む。

【記念館MS収入見込額 4,200千円】

事業費合計 3,340千円

記念館MS収入見込額 -4,200千円

-860千円